



川口の教育



令和2年度優秀教職員（はつらつ教職員）表彰（ワークファンルーム）
【北中学校 佐野 秀行 教諭（左）、安行東小 湯澤 竜太 教諭（右）】

第619号

【目次】

教育随想	「時の節目、二度とない経験」	川口市立本町小学校長 関口 景子	・・・(2)
教育随想	「出会いとつながり」	川口市立仲町小学校長 木村 達夫	・・・(2)
指導の手引き	「キャリア教育」の推進に向けて	川口市教育局指導課指導主事 上倉 義郎	・・・(3)
大貫海浜学園の現状と課題	～開園80周年、これからも川口の子供たちのために～	川口市立大貫海浜学園副学園長 滝澤 榮則	・・・(4)(5)
学校保健文部科学大臣表彰受賞	「心と身体の健康を守り、育む学校教育」	川口市立朝日東小学校長 熊谷 茂樹	・・・(6)(7)
教育ルポ			・・・(8)

題 字 川口市教育委員会教育長 茂 呂 修 平

12 月号

—令和2年—

編集・発行 川口市教育委員会

<教育随想>

時の節目、二度とない経験

本町小学校長 関口 景子



38年間の教職生活。学校を離れての勤務も多かったが、今振り返ると、その時々節目となる貴重な経験をさせていただいたことに改めて感謝の思いでいっぱいである。暫し、思い出話をご容赦いただきたい。

その一 『2002 FIFAワールドカップ』

平成14年、日韓共同開催サッカーワールドカップ。日本中、すごい熱気だった。当時、世界各国のサッカー試合会場では「フリーガン」(今では死語ですが・・・)の対策が課題に。そこで、埼玉スタジアムでの日本代表戦当日はフリーガン対策として、多くの駅周辺では市職員が防災服(!)を着用し、夜間街頭警備に立つことに。二人一組で夜の街角に立つ防災服姿の私たちに、道行く人々は怪訝な眼差し。代表戦のTV中継を見ることはできなかったが、埼玉スタジアムでの日本代表戦当日の各駅周辺は特に何事もなく、無事に夜間街頭警備の全日程を終了。

その二 『校舎の新築・移転』

平成21年、新任教頭として元郷南小学校に着任し、初めて校舎を新築・移転する予定であることを知った。移転先(現在の元郷南小)はまだ更地。地盤固めの巨大な杭打ち工事から始まり、現在の立派な校舎や校庭と結ぶ歩道橋などが姿となっていくのを浮立つ思いで日々見つめていた。2年目の年度末、いよいよ移転作業に入ろうかという時に起きた東日本大震災。旧校舎2階の渡り廊下はひび割れ通行禁止に。計画停電を気にしつつ修了式も終わり、一気に移転作業に入った。すべての物品を移動し、ようやく移転完了。同時に自身も異動となり、残念ながら新校舎での生活はなかった・・・

その三 『校名の変更』

平成23年、新任校長として鳩ヶ谷市立桜町小学校に着任。半年後の10月11日、川口市との合併に伴い校名が川口市立桜町小学校へ。職印、正門の校名プレート等々を作り替え、指導要録の児童の住所をはじめ、膨大な記載カ所の変更作業等に追われた。慌てたのは儀式用の校旗(三脚で立てる房飾りのついたもの)。卒業式も近いある日、「鳩ヶ谷市立桜町小学校」と刺繍されていることに気づいた。総務課に無理を言うてお願ひし、短時間で新しい校旗を作っていただき無事に卒業式当日を迎えることができた。

両手の指では足りないほど、二度とない数々の経験をさせていただいた。充実した38年間。その時々にご一緒させていただきました皆様、心から深く感謝を申し上げます。

出会いとつながり

仲町小学校長 木村 達夫



草加市、蕨市、川口市、中学校、小学校、36年間、たくさん子どもたちとその保護者、先生方、地域の方々に出会えました。そして、楽しかったことや、苦勞したけど何とか乗り越えられたことなどを、たくさん

経験しました。私が主に仕事をした30年間の平成時代。その時代は、社会の激しい変化に伴い、学校週5日制や総合的な学習の時間、そして全国学力・学習状況調査、学校評価、自己評価シート、学校運営協議会など、経験したことのない新たな教育の動きが、次から次へと始まりました。また、池田小事件、阪神・淡路大震災、東日本大震災など多くの事件、災害への対応も経験しました。その間、子どもたちや保護者、同僚・先輩教職員、さらには地域の方々との出会いの中で、課題を次の世代に積み残した面もありますが、それらに取り組むことができました。そこでは、多くの方々との「出会い」や「つながり」が支えとなりました。

学校が大好きで部活ばかりやっていた草加市、蕨市の教諭時代、教務主任、主幹教諭を務めた川口市では管理職の先生に支えられ、教頭として勤めた小学校でもわからないことは地区内の教頭先生方にいろいろ教えていただきました。そして校長として勤める令和の時代は台風による避難所開設また、新型コロナウイルスという新たな課題に直面し、3月の臨時休校、6月の分散登校、様々な学校行事の中止や新しい生活様式での教育活動など多くのことを経験しました。

私の教職人生36年間を振り返ると、他市異動、校種、職種など常に新しい「出会い」があり「つながり」によって様々な学びをし、豊かな教職人生を送ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今、子どもたちの状況を考えると、30数年前に比べ、便利なことが非常に多い反面、心配されることもたくさんあります(今後はさらに)。いかなる波が子どもたちに押し寄せようとも、「ふるさと川口」を愛し、「たくましく未来を切り拓く子」に、今後も成長していつてくれることを願っています。

最後の年も素晴らしい学校に恵まれ感謝しております。

「キャリア教育」の推進に向けて

川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 上倉 義郎

1 はじめに

社会環境の変化等により、子どもたちの将来の捉え方にも大きな変化がもたらされている中、キャリア教育が重要視されている。各学校ではキャリア教育の充実に努めていることと思うが、本稿では改めて基本的な定義や教育活動の参考となる資料の紹介をしておきたい。

2 「キャリア教育」とは

キャリア教育の定義は以下のとおりである。

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」平成23年1月31日)

つまり、目指す姿は社会的・職業的な自立であり、そのために、キャリア発達を促すことが必要となる。そのキャリア発達のために、具体的に必要な能力や態度を育てる教育活動を実施していかななくてはならない。

では、「キャリア」とは何だろうか。文科省の手引きでは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だしていく連なりや積み重ね」と捉えている。つまり、生涯にわたり職業生活としての「働くこと」のみならず、他者や社会とのかかわりにより「自分らしい生き方」となっていく、それらの連なりや積み重ねの総体であると言える。

では、「キャリア発達」とは何だろうか。

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

(中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日)

自己実現、自己の確立に向け、小学生と中学生では当然キャリア発達の段階が異なる。キャリア発達は、各時期にふさわしい課題を、段階を追って達成していくことを通して育成するものだということを理解する必要がある。

3 具体的な教育活動において

学校の教育活動において、キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動の学級活動を要としながら、総合的な学習の時間や道徳科、学校行事等、学校の教育活動全体を通じた取組が必要である。

具体的には、県が示すキャリアパスポートの様式である「私の志ノート」を活用し、年間5枚を作成、蓄積していく。このとき、年間を通して、さらには学年同士、校種同士のつながりを意識し

て教育活動を展開していくことが大切である。例えば小学校6年生の場合、以下のように進めていくことが考えられる。

年度当初の「私の志ノート」

将来の夢や、最高学年として頑張りたいこと、どんな6年生にしたいかなど1年間の目標を記すシート。

学校行事やクラスの生活、委員会活動等での目標や振り返りなど3枚

※年度当初と年度末を合わせ年間5枚

年度末の「私の志ノート」

なりたい自分に近づけたこと、頑張ったこと、中学校生活に向けての思いなどを綴るシート。

6年分を進学先中学校へ

この取組により、児童生徒にとっては主体的に学びに向かう力を育むこと、教師にとっては記述をもとに対話的に関わることで、自己有用感の醸成、自己変容の自覚につなげる効果が期待される。このことが、人間関係の構築、自らの意思決定、自己肯定感等、精神的・社会的側面の発達を促進させ、将来の社会人としての基盤づくりにつながっていくことになる。

4 おわりに

キャリア教育の推進には、学年や学校全体の共通認識のもとそれぞれの役割・立場において協力して指導に当たることが重要である。右記の資料等を参考に、キャリア教育の推進を図っていただきたい。



大貫海浜学園の現状と課題 ～開園80周年、これからも川口の子供たちのために～

川口市立大貫海浜学園副学園長 滝澤 榮則

1 はじめに

大貫海浜学園は、昭和15年に開園し本年80周年を迎えた本市の校外教育施設です。毎年5千人を超える小学校5年生児童が訪れ、集団宿泊を伴う各種体験活動を行っています。

2 ねらい、歴史

見聞を広め、自然や文化に親しむ 集団生活の在り方や公衆道徳について 望ましい体験を積む	昭和15年(1940) 開園 昭和19年(1944) 戦争のため軍の工場となる 昭和22年(1947) 再開 7・8月は水泳訓練 昭和37年(1962) 市内全6年生で実施 昭和55年(1980) 米持参から現金徴収に変更 昭和58年(1983) 現園舎完成 平成2年(1990) 開園50周年 シュロの木植樹 平成16年(2004) 5年生に変更 平成28年(2016) 2泊3日に変更 令和2年(2020) コロナウイルスのため休園
---	---

自然とのふれあい 集団宿泊生活

体験活動

↓

生きる力

昭和37年から市内全6年生で実施、現園舎は昭和58年(37年前)から使われています。

移行期間を経て平成16年から5年生に変更、また日程を見直し現在は2泊3日で行われています。

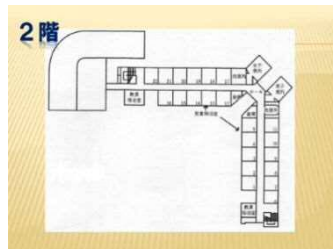
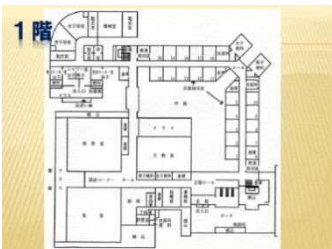
3 概要

住所	千葉県富津市千種新田(大貫駅歩15分)
敷地	13,356.19㎡(4,047坪)
建物	宿泊棟2階建 延3,970.04㎡(1,203坪)
内部	児童宿泊室42 教員宿泊室4 食堂 体育室 大教室 浴室 ロッカー室 等
職員	副園長 指導員 管理人2人(昼・夜) 調理員7人 計11人
対象	川口市52校と特別支援学級合同の 5年生 約5400人(引率者含む)
期間	5月中旬から11月中旬(7・8月実施なし)
費用	2,480円(食料費 平成24年より)他市費

施設は広く、2階建てでゆったりとしています。

費用は、平成23年までは3泊4日の米代として635円のみ徴収していましたが、現在も食材費を除きすべて市費負担です。

4 主な施設



園庭は広く芝が植えられ思い切り活動できます。園庭のすぐ先には、青い海が広がっています。晴れた日には海の向こうに富士の姿が望めます。



5 食事



食事は3日間の健康の源であり栄養価のある大貫ならではの美味しいメニューを提供しています。はかりめ(あなご)ご飯やアジフライ、肉うどんなどは好評で、児童はよく食べています。煮魚(アコウダイ)はやや苦手なようですが、残菜は概して少ない状況です。

食物アレルギー対応については万全の体制を敷き、事故のないよう細心の注意を払っています。

6 主な活動





昭和59年7月29日、金子明校長先生は、潮に流された児童数人を救い不幸にもそのまま帰らぬ方となりました。

殉職碑が園庭の海側に建立されています。

児童はここを訪れ、校長先生から当時の話を聞き、ご冥福をお祈りするとともに自らの安全を誓います。

いつの日からか、児童は拾った貝殻を並べるようになりました。



広い海を前に、児童は驚きそして喜びの表情を浮かべます。貝拾いでは夢中で桜貝を探します。

部屋では、入浴の合間や就寝前など児童は友達と触れ合い、互いの絆を高めます。



2校合同の場合、多くの学校が交流会を行っています。

朝のさわやかな空気に包まれ、学園での1日がスタートします。



2日目、山道を登り切りようやく到着、観音の大きさに驚き高台からの海の絶景に歓声が上がります。



「1本の炎は小さいけれど、〇〇本の明かりはこんなにも明るく私たちを照らします。」

最後の夜、皆で過ごす感動のひと時です。



学園に感謝を込め、児童は元気に退園していきます。

7 成果と課題

運営・児童管理
2泊3日、7・8月未実施となり、学校の負担や児童の暑さへの負担が軽減された。食物アレルギー対応が徹底できた。

学習活動
1日目午後の海での活動が増えた。東京湾観音へのハイキングやキャンドルファイヤーなど、日程の統一が図られた。

施設管理
冷風機や空調機(食堂)を設置し、涼しい環境が実現できている。必要箇所の計画的な修繕ができた。

成果は、児童が大貫の自然に触れ、集団宿泊を通した様々な体験活動を行うことにより、人間性の伸長が見られることです。

準備段階からの各校の校長先生をはじめとした先生方の努力の賜物です。

運営・児童管理
新型コロナウイルスに対応した学園運営
喫食時間の増加と残菜をなくす取組
食物アレルギー対応のより確実な取組

学習活動
海岸での活動の充実
自然を生かした日程の再考(3日目の活動)
ハイキングコースの再考(登山道の危険性)

施設管理
大型台風への備え
施設の環境整備(空調化)
計画的な大規模修繕と改築計画

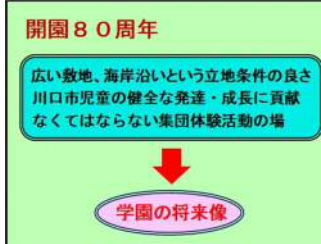
喫緊の課題は、新型コロナウイルスの対応に尽きます。今年度は、戦後初めての全面休園となってしまいました。

集団の中でこそ大貫の学びがあると考えますが、当面、施設の使用や活動の工夫により再開できるよう努めます。

施設・設備の適切な管理も課題です。今後も予算を効果的に使い、市教委担当課や地元業者と連携を図りながら各所の改修・修繕を実施していきます。

すべての児童が安全に3日間を過ごし、学園での教育効果が最大限に上がるようにします。

8 終わりに



大貫海浜学園は、広い敷地をもち海岸沿いという立地条件の良さを備えた本市独自の施設であり、他市にも誇れるものです。

昭和15年の開園以来長い歴史を有し、本学園は川口市児童の健全な発達・成長に多大な貢献をしてきました。

学園は今年、開園80周年の節目の年を迎えました。各小学校・保護者・川口市・地元富津市の関係の方々、そして、永年尽力された堺清氏をはじめとする学園関係者に心から感謝申し上げます。

川口市民の多くが小学生の時に自ら宿泊体験を行い、長きにわたり市民から愛されてきた学園は、これからも川口市の児童にとってなくてはならない集団体験活動の場であると考えます。

児童が学びを深め、生涯忘れ得ぬ思い出となるよう支援していきます。

心と身体の健康を守り、育む学校教育

川口市立朝日東小学校 校長 熊谷 茂樹

1 謝辞

この度、本校の学校保健活動が「令和2年度学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。学校保健部門では全国の小中高等学校から23校が選ばれており、この受賞は大変な誉れであります。

支えていただいた皆様のご理解、ご協力、惜しみないお力添えなくしては成り立つものではありませんでした。保護者の皆様、地域の方々、学校医の先生方と学校が表彰されたのだと受け止めております。

まずは本校教育活動に関わっていただいたすべての皆様へ、衷心より御礼と感謝を申し上げます。

2 すべての教育活動が学校保健に通じる

本校は、学校保健を「児童一人一人の心と身体の健康を守り、育む教育」と捉えています。つまり、すべての学校教育で取り組むものです。このような捉えは、いずれの学校にもあるものですが、本校はそれを強く意識して、日々の取組を行っているところに特色があるのだと考えています。

3 児童の生命を守る学校保健計画

学校保健全体計画・学校保健年間計画、歯科保健教育全体計画・年間指導計画、性に関する指導・エイズ教育全体計画・年間計画、学校保健部会活動計画、生徒指導全体計画・年間指導計画、いじめ防止のための年間計画、学校教育相談全体計画、特別支援教育全体計画、学校安全年間指導計画。これらすべて、児童の生命を守る計画にするという意識で作成・見直しにあたりました。

4 要となる養護教諭

本校養護教諭は、学校保健がすべての学校教育で取り組むものであるという確固たる信念の下、保健室経営から教育相談まで積極的に取り組み、学校運営の一翼を担っております。特に児童一人一人の心身の健康状態から背景にある家庭環境までを把握し、生徒指導のキーマンにもなっています。

教職員一人一人がそれぞれの分掌・立場で「児童一

人一人の心と身体の健康を守り、育む学校教育」を目指すことができているのは、要である養護教諭からの発信があるからこそです。

5 開かれた学校保健委員会

本校の学校保健委員会は、児童の心身の健康保持・増進に関する学校の健康課題を明確にし、学校・家庭・地域が連携して研究協議をし、その解消に努めるものと位置付けています。

過去2年間(年間3回)の内容は以下の通りです。

1回目には学校歯科医の先生による講話と保健委員会の児童による研究発表。2回目は十二月田中学校区学校保健委員会を開催し、有識者を招聘したインターネットと健康に関する講話やグループワーク。3回目は消防局による救急救命法の講義や企業からの講師による講話でした。

参加者は児童生徒、保護者、学校医、学校歯科医、学校薬剤師であり、さらに民生委員・児童委員、学校運営協議会員、学校応援団等、地域の方々にも参加いただいています。

6 自主的・実践的な活動と異年齢交流

特別活動(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事)は児童の自発的・実践的な活動であります。本年度より川口市教委の委嘱を受け、特別活動の実践・研究に取り組んでおります。特別活動を充実・発展させることは、「児童一人一人の心と身体の健康を守り、育む教育」には欠かせません。

学級活動では養護教諭と担任による授業を行っています。児童会活動では児童保健委員会を例に紹介いたします。特別活動は、その本質である自主的・実践的な活動にするための取組にしなければなりません。これは児童会活動も同じです。毎年恒例の取組であっても、「もっと充実させたい」「こんな工夫をすればよいのでは」等の意欲をかき立たせるには、活動することで充実感を味わわせる必要があります。異年齢交流をすることで委員会のメンバーである高学年児童は、「言われてやる活動」から「自らやる活動」へと昇華させていきます。また活動発表の場を設け

ることで、「認められる」充足感を味わわせます。

- ・朝東っ子(あさひっこ) 歯磨き隊として1～4年生の学級を訪問し、ブラッシングのアドバイスをしています。
- ・学校保健委員会で「咀嚼ガムの効用実験」「フッ化物のパワー検証」等の研究発表をすることで、保護者や地域の方からも感心されました。

7 心の健康が一番大切

児童は、それぞれに課題を抱えています。中には悩みやストレスに押しつぶされそうになる児童もおります。どの子も明るく素直で元気というわけではありません。自分の気持ちの表現の仕方、コミュニケーションのスキル等を育てつつ、教職員一人一人が児童を丸ごと受け止めることを大切にしています。

- ・教育相談日(保護者や児童が相談したい教職員を指名できます。担任だけでなく管理職やスクールカウンセラーも含めます)
- ・校長先生ポスト(人目を気にしてポストに悩み相談の手紙を投函することをためらう児童のために、クイズを出して、解答用紙を投函する形に変えました。その用紙には「おはなししたいことがあったら、なんでもかいてね」のコーナーを設けました)
- ・生徒指導委員会(それぞれ分掌としてあった生徒指導委員会と教育相談部会と就学支援委員会を「生徒指導委員会」に一本化しました。教師が生活目標の振り返りや協議すべき内容、個別の対応を校務共有の「生徒指導委員会シート」に予め入力し、校長と生徒指導主任が目を通し、必要に応じて情報を整理したり、どう対応するべきかのコメントを書き込んだりします。それをプリントアウトしたもので委員会を開催します)
- ・学習課題の精選(3か月の自粛期間は、保護者の負担を軽減するために学校からの学習課題を精選しました。担任からのメッセージカードや不安なことがあったらいつでも電話をしてほしいというプリントを個別に配達しました。HPには保護者にも励みや癒しになるような写真やコメントを意図的に何度も掲載しました)
- ・パパママ子育て知恵袋(毎週1号のペースで、保護者向けに子育てのヒントを短い文章にしてHPに掲載しています。お説教にならないよう、保護者に肩の力を抜いてもらえるような内容を心がけています。保護者の心の健康も大切にしたいと思って

います)

8 DMF歯数平均0.03本

D(いわゆる「むし歯」の数)・M(抜いた歯の数)・F(治療してある歯の数)が0.03本、つまりほとんど「ゼロ本」でした。(令和元年度)

- ・歯と口の健康週間(カラーテスターを家庭で実施、ポスターや標語づくり、朝の集会活動で学校歯科医の先生による講話とブラッシング指導等)
- ・歯科保健授業
- ・「歯っぴーファイル」(歯科健診の事後指導や歯科保健授業で使います)
- ・「朝東っ子みがき」(毎日、給食後に音楽に合わせて全校一斉にブラッシング)
- ・「歯っぴータイム」(毎週水曜日の給食後に全校一斉にブラッシングとフッ化物洗口を行います)



9 終わりに

感染症拡大防止のための生活の指針づくり、児童の怪我や不調への対応マニュアル、アレルギー対応マニュアル等、どれも原案を全教職員で検討し、いつでも改善できるよう、ボトムアップができるようにしています。

体力づくりの「パワーアップコンテスト」、異年齢集団活動の「全校徒歩遠足」の実施、児童の自主的・実践的な活動推進のための「6年生キャンプファイヤー」、地域の健康祈願に向けた連合町会共催の「花火大会」等々、ご紹介したいことがまだまだあります。

教職員一人一人が主体者となって、「児童一人一人の心と身体の健康を守り、育む教育」に邁進しています。

感染症拡大が深刻になっている現在、これまで通りの取組を実施することはできません。学力以上に、本来育っているべき体力や非認知能力に大きな課題が見えるという現実、本校は真摯に向き合い、解決に向けて歩み続ける所存です。



教育ルポ



川口市マスコット「きゅぼらん」

上青木南小学校では、大貫海浜学園の滝澤副学園長をゲストティーチャーにお招きして、スライドを使った説明や、貝殻を使った制作活動を行いました。

各学校の取組の様子

上青木南小学校



大貫海浜学園体験



原町小学校



5年生 キャンドルファイヤー



6年生 ミュージックフェスティバル

令和2年度いじめ対応教員研修会（R2. 11. 17）



芝西中学校陽春分校（夜間中学）への県教育委員会による視察（R2. 11. 9）

